

## 社会技術研究開発事業 研究開発プログラム「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」

### 平成20年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

1. 研究代表者：小出 浩平（株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ 執行役員）
2. プロジェクト企画調査の題名：都市・農村の広域連携による低炭素生活圏モデルの構築
3. プロジェクト企画調査期間：平成20年10月～平成21年3月

#### 4. プロジェクト企画調査の概要：

この企画調査では、長野県伊那市と東京都新宿区の「地球環境保全協定」（2008年2月10日締結）をベースとして、二地域の効果的かつ永続的な脱温暖化への取組みを通じて行う「都市・農村の広域連携による低炭素生活圏モデルの構築」を目標とした。具体的には、二地域の協定内容をより具体的な行動やアクションへの展開に結び付けるために、地域の実情に合わせて下記の3つのグループを設定し、脱温暖化に向けたプロジェクトや事業の実現可能性などの探索を行った。

- グループ1. 森林保護系：協定の「入口」となる間伐事業の価値（CO<sub>2</sub>吸収量等）の検討。
- グループ2. 森林活用系：協定の「出口」として、取り組みの継続・定着のため、間伐材利用の事業化等の可能性調査。
- グループ3. 交流プロジェクト系：協定を大幅な脱温暖化に結びつける「幹」として、住民・事業者の低炭素ライフスタイルへの転換の可能性調査。

#### 5. 事後評価結果

##### 5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

「都市・農村の広域連携による低炭素生活圏モデルの構築」という目標に対して、新宿区と伊那市を例とし、都市と農村の交流により伊那市（農村）の森林保護・間伐を行い、伊那市（農村）で製造したバイオマス由来燃料を新宿区（都市）で利用し、間伐材の材料は、新宿区（都市）における無垢の木によるリフォーム等に活用する、という企画調査実施者らが考える「仮説モデル」が示され、それに基づき以下のような検討や活動が行われた。

- ・森林保護・間伐によるCO<sub>2</sub>吸収量増大や化石燃料の代替についての検討など、温暖化対策に関して一定の検討がされ、森林保護・間伐事業単体での大幅なCO<sub>2</sub>吸収は困難であることが示された。
- ・間伐材利用の事業性検討は、ペレットボイラーに絞った形ではあるが、経済性の評価がなされた。また間伐材の材料としての利用可能性調査として、無垢の木によるリフォームの意義と効果が検討された。
- ・地域資源の調査や人材交流が行われた。

##### 5-2. 研究開発プロジェクトの提案にむけた準備状況

研究開発プロジェクト提案のためには、なお以下のような課題が残されていると考えられる。

- ・本モデルによる都市・農村の広域連携が、自然エネルギー・バイオマスの活用を通じての本格的温暖化対策にどの程度寄与できるかについて、明確化していく必要がある。
- ・「仮説モデル」はなお未完成である。特に都市側について、プロジェクトへ参画する主体や、参加することのメリットを明らかにしていく必要がある。また、都市・農村双方において、行政との連携の重要性についてのより強い認識が必要である。